

## 令和6年度 京都市民健康づくり推進会議 口腔保健部会 摘録

### <開催日時>

令和6年12月18日（水）午後3時30分～午後5時

### <開催場所・形式>

ハートンホテル京都 1階「伏見」 ※オンライン併用

### <構成団体及び出席者>

資料1、資料2のとおり

### <摘 録>

- 1 開会の挨拶 事務局（健康長寿のまち・京都推進室長）
- 2 出席者紹介等 事務局
- 3 部会長挨拶 部会長
- 4 議 事 進行 部会長

【議事1】「京都市 健康長寿・口腔保健・食育推進プラン」に基づく取組について

説 明 事務局 資料4～6に基づき説明

意見聴取 ○機関・団体等 ◎部会長 ●事務局

- （一社）京都市老人クラブ連合会（すこやかクラブ京都）

市民の歯と口の健康に係る数値の調査方法やサンプル数はどれくらいか。

- 事務局

数値のうち、歯科健診が必要な数値は、本市歯科健診事業データから算出。概ね全体で1,500人規模、年代によって100人～600人程度のばらつきがある。市健康づくり・口腔保健・食育アンケートに基づく数値は、概ね2,000人規模で、各年代のサンプル数は200人前後が多い。

- （一社）京都府歯科医師会

子どものむし歯はある子とない子の二極化している。兄弟がいる子はおやつと一緒に食べるなどの生活習慣の影響が大きい。対策として、例えば、市のフッ化物歯面塗布事業の回数を増やしたり、実施時期を就学前まで延ばすことなどを検討してはどうか。歯科医院にもつながるきっかけとなる。

また、20～30代の歯ぐきの炎症も気になる。歯科健診を受けるよう、大学生への啓発や20歳の市民への個別はがきを送付するなどの取組が必要。

- 事務局

3歳児のむし歯罹患率は地域差も見られ、本市フッ化物歯面塗布事業の受診率は50%を超えているものの、伸び悩んでいる。御助言も踏まえ、地域に応じた対策や生活習慣の改善への適切な指導、塗布受診勧奨などに取り組んでいく。また、歯周疾患予防健診の対象に20歳・30歳を追加したが、現状の受診状況は芳しくない。大学生を含む若年層への歯科健診の啓発は重

要な課題。ぜひ皆様の御助言やお力添えも賜りたい。

○ 市民公募委員

自身の入院経験から口腔ケアの重要性を痛感。労働者に対する一般健康診断では、未受診の従業員に対し雇用主が受診勧奨する。企業などの雇う側に歯科健診の受診勧奨をするように求められたらいいのではないかと。

昨年度、プラン策定の検討の際、かかりつけ歯科医の重要性も大切な視点と認識したが、本日の資料には数値がない。市民のかかりつけ歯科医の状況を追跡する必要はないか。

● 事務局

入院時の口腔ケアの重要性、企業へのアプローチの必要性については御指摘のとおり。かかりつけ歯科医については、かかりつけ医やかかりつけ薬剤師と併せて、現プランでも引き続き重要と認識。確認する数値としては挙げていないが、今後のアンケート調査の項目にも含めていく予定。参考として、令和4年度の本市すこやかアンケートでは、65歳以上で「かかりつけ歯科医がいる」と回答した市民は67.5%。

○ (公社)京都市保育園連盟

子どものむし歯について、ある子はある、ない子はないと二極化が見られる。親の意識が大きく影響。保育園でも歯みがきはするものの、やはり家庭での継続が課題。親世代からの習慣の引継ぎを考えると妊娠期からの歯の啓発も必要である。親子で同時に歯科健診を受診するのはどうか。また、企業における健康診断と同様に、歯科健診も定期受診を義務付けたらよいのでは。

◎ 部会長

親子で同時に歯科健診をして口腔内チェックするのはよいアイデアと思う。

● 事務局

保育園での子ども自身への取組と併せ、親世代へのアプローチなど、家庭全体での口腔保健意識の向上は重要な視点。なお、参考情報として、つい先日の厚労省の検討会で、職場の一般定期健診に歯科健診を追加することが議論されていたが、歯科疾患と労働の間の因果関係を示す知見はまだ不十分であり、一般健康診断に追加するということは見送られた。一方、歯科健診は重要であり、歯科健診につなげる啓発は必要という認識も示唆。学術的な裏付けの進展も望まれる。

○ (公社)京都府栄養士会

8月4日の栄養の日に合わせて行った会主催の啓発イベントに、本年度は歯科衛生士会に参加いただき、口腔に絡めた啓発も実施。専門職連携による健康づくり推進の重要性を認識。

○ (公社)京都府看護協会

働き世代の検診は必要。仕事で時間がない世代であれば、集団健診で歯科健診も実施すればよいのではないかと。

看護職の感触として、診療・介護報酬点数の見直しなどもあり、訪問・入

院・施設の現場での口腔の状態はかなり改善されたと思う。なぜ食べられないのかを考えた際に、口腔状態が悪いことが多い。むし歯などはもちろん、口の清潔も重要な要素であり、チームアプローチが必要。

● 事務局

高齢者や障害児者の方など、自身で歯科医院に行くことが難しい方への口腔健康管理の推進は重要と認識。

○ （一社）京都府薬剤師会

市医療衛生企画課と連携し、大学生を対象に大麻の危険性についてアプローチする企画を検討中。そういった機会に、分野を問わず一緒に歯の健康の啓発をしてもいいのではないかと。また、学校薬剤師などの学校に必ず配置される医療職による健康教育との連携も考えられるのではないかと。

国民のヘルスリテラシー自体は向上しているが、口腔に関する知識は依然として不足。高校や大学は歯科健診がないイメージ。大学生への啓発活動は重要。

● 事務局

他分野と一緒に取り組むことについては、本プランの重要な視点。

学校歯科健診は学校保健安全法に基づいており、高校までは義務付けられている。しかし、大学では除外できる項目であるため、実施していない大学が多い。大学生を含む若年層への歯科健診の普及は、本市にとっても課題と認識。

○ （公社）京都府歯科衛生士会

能登地震への対応のため、本会からも歯科衛生士を派遣した。災害対応の可能な歯科衛生士の育成のため継続的に研修を実施。平時の準備についての発信も必要。

また、若年層への啓発として、例えば、妊婦へ歯科健診チケットを配布したり、婚姻届を提出したらお祝いとして歯科健診チケットを渡したりしては。

◎ 部会長

長く一緒に暮らすと口腔細菌層が似てくるといった学術報告もあるので、子どもができる前に口腔内を整えておくのは非常に重要。

● 事務局

能登地震の際、京都からも歯科医師会を中心に歯科衛生士会・歯科技工士会で編成した歯科チームを派遣された。歯科分野では行政に歯科専門職の職員が少ないのが特徴。被災者対応には歯科医師会、歯科衛生士会、歯科技工士会の協力が不可欠。平時からの準備は重要であり、情報発信に努めていく。

○ （一社）京都府歯科技工士会

当会も能登地震の災害対応として歯科技工士を派遣し、義歯修理などを行った。被災地では歯科材料の不足を実感。説明のあった災害時における口腔ケア用品の提供協力に関する三者協定について、歯ブラシなどの一般的な物資に加え、歯科材料などの備蓄も検討すべき。また、市備蓄品目に追加され

た「ペーパー歯みがき」とはどんなものか。

● 事務局

ペーパー歯みがきは、口腔清掃用の個包装のウェットティッシュのようなもの。

災害時の医薬品や歯科材料の供給やその備蓄について重要な課題ではあるが、前提として、都道府県と市町村の役割分担も考慮が必要。

○ （一社）京都府歯科医師会

中学校のフッ化物洗口の推進が必要。大学生に対する歯科健診については、費用面や大学の協力が課題であるが、大学の健康診断と同時に実施できれば受診率向上を期待できる。また、能登地震で当会から派遣した京都府 J D A T の報告から、入所施設での口腔ケア、必要な物資の選定、歯科コーディネータの配置など情報連携体制の構築、アセスメントシートの統一化などが重要と感じた。

【議事 2】その他

|      |                   |
|------|-------------------|
| 説 明  | 事務局 資料 7、8 に基づき説明 |
| 意見聴取 | 御意見なし             |

以上、午後 4 時 5 5 分閉会